

# 村の日常—働く・休む—

仙台市博物館 学芸普及室 倉橋 真紀

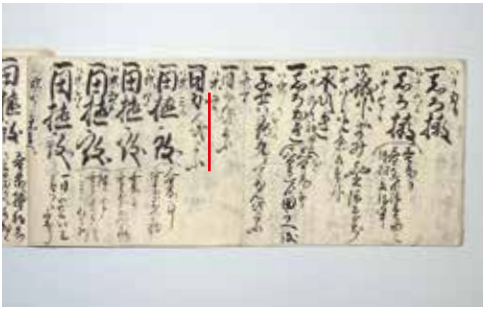
## 第2回

### 江戸時代の日常生活を記す

古文書という難しい内容が記されているものと思われるかもしれませんが、しかし、さまざまな階層の人が文字で記録を残すようになった江戸時代、村に住む人々がふだん使う言葉や方言で毎日の暮らしぶりを記したのも増えてきます。

今回は、そうした村のようすがわかる古文書を『仙台市史』の資料編や通史編に掲載されているものから二点紹介します。

一点は愛子村（青葉区）に住み、その村にある仙台藩士の屋敷に奉公していた長吉が、毎日の仕事内容や行動を記した嘉永六年（一八五三）の帳面（写真）。



長吉の記した「働き方留覚帳」 朱線部分に「かんびよふ」とある 仙台市博物館蔵

### 村で働く

長吉の帳面をみると、藩士に仕えていても、その生活は百姓とほとんどかわらないことがわかります。そこには「しろかき（代掻き）」や「草取り」といった田畑の作業に関わる単語が並び、「炭焼き」や「栗ひろへ（拾い）」をして城下へ売りに行くとも記されています。藩士の屋敷で働いたり、供をしったりする記述は年に数回しかありません。

仙台では五月が田植えの時期。長吉の田植えは五月十九日に始まりますが、翌日、子どもの「おつめ」が病気になる、丸三日「かんびよふ（看病）」を続け、四日目からは田植えの後に看病しています。しかし、六日目には自分が「あんばんいわらい（塩梅悪い）」と書いて寝込んだとも書かれています。

ほかに「麦ぶち（麦打ち）」や「ほまち（ほまち、臨時収入）」など、濁点がついたなまりや方言と思われる言葉も

たくさんあり、長吉の話し方や人柄まで浮かんでくるようです。

### 村の休日

佐藤家の帳面の表題には「休日色々留覚帳」と入っています。

「休日」とは、仙台藩が定めた百姓が農作業を休む日のこと。休日は「遊日」とも呼ばれ、長吉の帳面では「あすび日」とも書かれています。田植え後の休みや秋の彼岸の中日などを含む藩の休日は、江戸時代を通じてほとんど変動せず、年間八十日を限度としていました。

ところが、この帳面からは、佐藤家が藩の指定日以外も休日としていたことがわかります。

多いのは地域の祭りの日の休みです。三月十八日、近村である植松村（名取市）の弘誓寺にある観音堂祭りは休日でした。また、現在も行われていないようですが、八月七日、鉤取村（太白区）の牛頭天王祭りも休日です。牛頭天王へのお供えはきゅうりであることが多く、佐藤家でも「うりもみ（きゅうりもみ）」を食べると記されています。祭りの日は、仕事を休んで行事に合わせた食事を用意したのでしょうか。

これら二点の資料は短いものですが、村の人たちの働き方や休みの日の過ごし方といった日常が感じられる内容です。

さて、祭りといえば仙台市博物館はせんだいメディアテークで「祭り」を開催中。こちらの祭りもぜひご覧ください。

**仙台市博物館 出張企画!!**

期間中、  
伊達政宗所用  
「黒漆五枚胴具足」  
のレプリカを  
展示します!

資料:黒漆五枚胴具足  
伊達政宗所用(レプリカ)部分

仙台市博物館体験展示

## 伊達政宗と お祭りひろば

**【会場】せんだいメディアテーク  
5階 ギャラリーC**

**【期間】5/6(金)~5/24(火)**  
10:00~17:00  
期間中、毎日開催

**入場  
無料**

詳細は博物館ホームページでご案内しています  
(QRコードからアクセスできます)

**仙台市博物館**  
SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ [仙台市博物館](#) 検索 ▶お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)

▶博物館ツイッター @sendai\_shihaku TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。